

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300059
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	まちなか
所在地	四国中央市川之江町字馬場2083番4
自己評価作成日	H25年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの名称どおり、川之江の”まちなか”に位置し、昔ながらの商店街が近くにあり地域に溶け込めるホームを目指しています。
職員全員がまちなかでの生活を楽しみながら支援することで、利用者が安心して楽しく生活できるような雰囲気作りに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年6月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●お天気のいい日は、近くの公園まで散歩したり、商店街に買い物に出かける等して外出されている。本のお好きな方は、職員と一緒に図書館に行き、薬草の専門書等、興味のある本を借りられるようだ。事業所は、徳島県や香川県にも気軽に出かけられる位置にあり、法人デイスターの車を借りて、利用者全員で吉野川や、豊浜の道の駅までドライブすることもある。
●毎月、法人代表者は「職員研修用」に「職員新聞」を作っておられる。新聞は、新人職員にもわかりやすいよう作られており、毎月法人代表者が講師となり、勉強会を行なっておられる。
●2ヶ月に1度、近くの保育園から園児が来てくれるようになっている。保育園の年間行事予定表を居間の壁に貼っておられ、その中には事業所への訪問予定もあった。市民会館で定期的に開催されるカラオケ大会には、歌を歌うことや聞くことがお好きな利用者が出かけられるよう支援されている。入居前から参加している方もあり、顔なじみの方にも会えるようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

まちなか

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

長谷川 淳一

評価完了日

H25 年 5 月 24 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 日々の会話の中で、理念について話題にしていくことで、職員間で共有できるようにしている。	
			(外部評価) 理念は開設以来、「人生の継続性を大切にし、自分が自分として生きていく」「自分がされたり言われて嫌なことはしない、言わない。」と揚げておられ、管理者は、「迷った時は、自分に置き換えて考えてみる」等しながら取り組みをすすめておられる。法人代表者は、グループホームは、「生活で困ったことを支援する場所」であることを職員に話して、自立支援に向けた取り組みを実践できるよう促しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所の保育園の園児やふれあい相談員の来設、商店街での散歩や買物など近隣の人との交流や地域行事に参加をしている。	
			(外部評価) 2ヶ月に1度、近くの保育園から園児が来てくれるようになっている。保育園の年間行事予定表を居間の壁に貼っておられ、その中には事業所への訪問予定もあった。管理者は、今後、「保育園に利用者が出向くような機会も作りたい」と話しておられた。市民会館で定期的開催されるカラオケ大会には、歌を歌うことや聞くことが好きな利用者が出かけられるよう支援されている。入居前から参加している方もあり、顔なじみの方にも会えるようだ。町内には、一人暮らしする高齢者が複数おられるため、運営推進会議時、地域の方から、「介護施設や福祉について、わからない人が多いので、ホームに気軽に相談できるようにしてほしい。」というような要望もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 施設見学をしていただいたり電話による介護の相談など行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者にも参加していただくこともあり、活動報告やサービス向上に努める機会にしている。会議は気軽に参加や話し合いができるように、茶話会のような雰囲気でおこなっている。</p> <p>(外部評価) 昨年度は、定期的な会議開催や毎回メンバー全員の会議参加を目指して取り組まれた。会議開催日は、商店の休みの日に合わせて、年間の開催日をあらかじめ決めてお知らせおき、会議の1ヶ月前と、さらに、2週間前にもう一度案内を出すようにされた。会議には、地域包括支援センターの担当者、近所の商店等の3名の方に参加していただいている。会議時に来られていない方には、職員がたずねて行き、参加を呼びかけておられる。ご家族にも全員に案内をされるが、参加いただくまでには至っていないようだ。法人代表者は、ご家族の会議参加について、「ご家族に会議を理解していただくことが今後の課題」と話しておられた。</p>	<p>管理者は、会議について「気軽に話をして、参加者のいろいろな意見を聞きたい。」と考えておられる。会議の目的や意義等をご家族にも分かりやすく伝えて、利用する側であるご家族等の参加も増やしてほしい。さらに、会議の機会を活かして事業所の活動内容をより具体的に知ってもらえるよう会議内容やすすめ方についても工夫を重ねられてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ふれあい相談を通じて、意見交換や改善、向上に努めている。市役所へ申請や届けを提出する機会に状況など伝える機会にしている。</p> <p>(外部評価) 月に1度、2名のふれあい相談員の訪問がある。5月には、市の担当課の方が一緒に来られて事業所を見学されて、衛生面の管理等についてアドバイスをいただいた。事業所は、倉庫を片付け、汚物用のゴミ箱は外に置くようにされ、6月のふれあい相談員の訪問時に、改善の取り組みについて説明された。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の施錠はせずに、自由に外のベンチや花壇などに行くことができるようにしている。ケアや言葉遣いなど職員で確認や点検を行っている。</p> <p>(外部評価) 職員は、「利用者が外を見て寂しそうにしている時」には、一緒に外に出て散歩したり、自動販売機のジュースを買いに行く等して、気分転換できるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 申し送りや、ミーティングなどで、不適切なケアがなかったか話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 新入社員が多く、制度の理解や活用は、今後、勉強会を行っていききたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、本人とご家族に十分な説明を行い、納得していただいてから契約をしている、	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の面会時には、近況を報告し、意見、要望など聞きながら反映、実践につなげている。施設の行事や避難訓練など参加していただいている。 (外部評価) ご家族の来訪時、職員が利用者の「最近の状況」を報告されたり、ご家族から質問があれば答える等して報告をされている。職員が毎月、ケアプランをもとにして記入する「気づきシート」の内容をもとにして、法人事務所でお手紙を作成されており、ご家族に送付されている。法人のホームページをリニューアルされ、法人代表者は、今後は、「ホームページも活用してご家族に情報を発信したい」と考えておられた。	食事や外出、ケアや職員のこと等、ご家族への情報発信についてもより具体的な報告ができるよう工夫して、ご家族とのさらなる信頼関係を作っていかれてほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議にて運営について話す機会を設けている。	
			(外部評価) 毎月、法人代表者は「職員研修用」に「職員新聞」を作っておられる。新聞は、新人職員にもわかりやすいよう作られており、毎月法人代表者が講師となり、勉強会を行なっておられる。行事等については、あえて担当を決めず、すべての職員で話し合い、決めるようにされており、又、職員の意見は主任に伝えると代表者に届くようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は状況を把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は日常的にOJTを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会などに参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初めは、社会的な利用者さんの側に居場所を確保するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の意見を尊重し、できる限りの支援を心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス内容の説明と共に通院やインフォーマル、フォーマルなほかのサービスについての活用を情報提供している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 何事も利用者さんと一緒にする事を心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 季節の変わり目では、衣替えをお願いするというような無理の無いところから関わっていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時は馴染みのある道を通ったり、買物に行くなどし、知人に会った時は、ゆっくりお話をさせていただいたりしている。 (外部評価) 利用者がご家族のことを覚えておけるよう職員は、居室に家族の写真を飾り、時々見たり、ご家族のことを話題に出しながら会話して支援に工夫されている。知人等が訪ねて来られた際には、気兼ねなく過ごしていただけるよう居室に案内をされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員がつなぎ役として間に入ったり、利用者さんが他の利用者さんの介護をすることによって新しい形の関係ができたリするような支援を心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 相談があればフォローをしているが、積極的な働きかけまではしていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入浴、通院などを活かし職員、利用者さんが一対一で話しができるよう努めている。 (外部評価) 法人代表者は、「お茶を飲みながら地名や昔話を話題にして個々のことを知ること」の大切さを職員に伝えておられる。又、会話の中で「ここでどのように生活したいか」「何歳まで生きたいか」等についても聞けるよう職員に話しておられる。誕生日には職員が、個々に希望を聞き取っておられ、現在は、「ケーキを買って食べれたらいい。」と言われる方が多いようだ。	理念にもとづき、今後さらに、日々の中で知り得た利用者個々の情報を活かして支援に工夫を重ねていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんには、その時代時代の出来事などの話題に水を向けたり、ご家族が面会に来られた時にお伺いしたりして把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 掃除や洗濯、食事の準備などを通じて利用者さん個々の状況把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人やご家族から、意見、要望など話し合いをして取り入れながら介護計画を作成している。承認をいただく機会にも話し合いをいって意向の反映に努めている。項目は1～2項目としてわかりやすく、現状で一番大切と思われるものになっている。</p> <p>(外部評価) 毎月の職員会議時、利用者個々の介護計画についてモニタリングを実施し、6ヶ月毎に計画を見直しておられる。利用者個々に、「介護に関する希望」を聞き取り、ご家族には「介護についての意見」を聞き、計画に反映するよう取り組まれている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録や介護日誌の他にも、水分量、血圧の変動、排泄など医師からの指示や相談、報告が必要な場合には、別に記録をして共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ニーズに応えられるように職員間でより良い案を話し合いながら柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 本人が必要な地域資源を活用しながら、安全で豊かな暮らしが楽しめるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前からのかかりつけ医を受診できるようにしている。ご家族や職員が付き添い、緊急時は必ず職員が付き添い、十分な情報の共有を行っている。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医に続けて診てもらえるよう支援されており、ご家族が受診に付き添われるが、現在は、都合のつかないご家族が多く、職員が付き添われることが多い。車への移乗等に不安があるご家族には、職員も同行して支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 記録などを活用し、スムーズな情報提供と、対処方法、相談、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は日々の記録や病歴、投薬情報の提示や口頭でも申し送りを行っている。入院時は定期的に訪問し情報交流や安心していただけるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階に本人やご家族と重度化した場合の方向性について話し合うようにして、職員全員で共有している。	
			(外部評価) 利用契約時、ご家族には、「最期をここで迎えることはできない」ということを話しておられる。この1年、看取りの事例はないが、これまでは支援経験があり、現在も、「最期までお願いします」と希望する利用者やご家族がいる。ご家族へは「かかりつけ医が死亡時の確認に来てくれる医療機関であるか」を確認して、難しい場合には、事業所で医療機関を紹介して支援できる体制を作るようにされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	(自己評価) 職員一人ひとりが、緊急時に応急処置や対応できるように、実践力を身につけるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防避難訓練の他にも地域の災害時の避難訓練に参加している。運営推進会議で、災害時の協力依頼についても話し合いをしている。 (外部評価) 3月に日中の火災を想定した避難訓練を実施した際には、2名の地域の方に参加していただき、駐車場に避難した利用者の見守りをお願いされた。地震等の自然災害を想定した「防災訓練」が11月に地域ぐるみで行われ、利用者と職員で、避難場所となっている高校まで歩いて行かれた。全国的な災害ネットワーク「災害時法人ネットワーク」に加入されており、北海道から九州まで、20社ほどの法人がいざという時に助け合う体制のもと活動されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念である“自分がされたり、言われて嫌な事はしない。言わない。”を常に心がけ、言葉かけや対応を行っている。 (外部評価) 理念に、「誰の世話にもならず自分で生活していると思えるような環境を整える」という「自立支援」を謳われており、職員は利用者が「自分のことは自分でできる」ような支援に努めておられる。利用者がみなが集う場所で、トイレに間に合わなかったような場合は、そっとお風呂場に誘い交換できるよう支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活は本人の思いを受け入れ支援している。意思表示や自己決定できるような声かけの工夫を行い接している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望を尊重し、生活リズムやペースにあった暮らしが送れるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣の際は職員も一緒になって季節や気候に合った物を選ぶように気遣い支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員と一緒に冷蔵庫の食材を見ながら献立を考えたり、一緒に調理の下ごしらえを手伝って頂いている。嗜好を聞き献立に反映している。外食の機会も設けている。	時には、ご家族も一緒に食事する機会を作って、サービスについて感想を聞くような機会も作ってみてはどうだろうか。
			(外部評価) 週2回、職員が食材の買い物をされている。献立は、職員が食材を踏まえて利用者に食べたいものをお聞きしながら決めておられる。現在は、ちらし寿司やカレーライスが好まれる方が多いようだ。調査訪問時の昼食のカレーライスにウスターソースをかけ、「ソースをかけると一味違う」と好みの食べ方をする利用者もおられた。利用者は、職員と一緒に野菜の皮むきや味付け、盛り付け等、食事作りにかかわっておられる。にぎり寿司の出前をとったり、ほかほか弁当でお好きなお弁当を注文するような時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 生活健康表の作成と記録。栄養バランスや水分量の確保ができるように好みの物を提供できるように配慮、支援している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後や起床時、就寝前には、必ず、一人ひとりに応じた口腔ケアを実施し清潔を保っている。義歯は毎日就寝時に洗浄剤を使用するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を作成、記録し、排泄パターンを把握してトイレの声掛けや誘導を行っている。	
			(外部評価) 尿意を訴えられない方も日中は定期的に誘導することで、トイレで排泄できるよう支援されている。病院から退院後に入居された方に当初はパッド交換で対応しておられたが、誘導して支援することを続け、現在ではトイレで排泄できるよう改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や繊維質の多い食事の配慮や、運動、散歩など取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望やタイミングに合わせて入浴できるように支援している。浴槽に一人で入ることが難しい利用者さんには、職員2名で介助して安心して入浴していただいている。	
			(外部評価) 毎日入浴する方、一番風呂に入りたい方、最後にゆっくり入りたい方等、できる範囲でご本人の希望に沿うよう努めておられる。浴槽のお湯は、ひとりずつ入れ替えておられ、好みで入浴剤を入れる方もおられる。入浴中に浴室で下着を手洗いする方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣や、体調などを配慮し、安心してゆったりと休めるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 使用している薬について、目的や副作用などを説明して貰い、用法、用量についても確認。わからないことや様子に変化が見られた際は、主治医や薬剤師に迅速に報告と指示をもらうようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの得意なことや趣味を活かせるように、支援している。ドライブや外出など全員で出掛け気分転換ができるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 要望や希望など、受け入れ支援している。普段行けない場所も可能な限り、外出できる機会を作れるようにしている。	
			(外部評価) お天気のいい日は、近くの公園まで散歩したり、商店街に買い物に出かける等して外出されている。本のお好きな方は、職員と一緒に図書館に行き、薬草の専門書等、興味のある本を借りられるようだ。事業所は、徳島県や香川県にも気軽に出かけられる位置にあり、法人デイスサービスの車を借りて、利用者全員で吉野川や、豊浜の道の駅までドライブすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 商品を選んだり、支払いしてもらうなど、できることを把握しながら一緒に買い物に出かけるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの申し出に応じ、電話をしたり、手紙を出したりできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 観葉植物を置いたり、季節の花を飾ったりしている。竹炭を置き消臭を行っている。テレビの音量や採光、照明の配慮や室温や換気にも気を使い、居心地よい環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者と職員が玄関先の花壇の水遣り等をしていると、通りかかった近所の方が声をかけてくださることもある。玄関には、利用者が入居前に描かれた風景画の油絵が額に入れて飾ってあった。洗面所には、職員が持って来たつつじ等のお花が生けてあった。午後からは、3名ほどの利用者がテレビドラマを見て過ごされていた。「テレビの音」が近隣に迷惑にならないように、夜間は窓を閉め、音量を小さめにするよう気を付けておられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共有のリビングだけでなく、廊下にも椅子を置き、各自思い思いの場所で好きなことができるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の使い慣れた馴染みの物を入居の際持ってきていただき、入居後も本人とご家族と相談しながら使いやすいように配置している。</p> <p>(外部評価) 居室にテレビを置いている方は、「私はドラマだったら何でも好き。ひとりで見るのが好きです。」と話しておられた。ご家族の写真や入居前に趣味で撮った風景や植物等の写真を飾っている居室もみられた。洋服をハンガーラックにかけて、毎朝ご自分で洋服を選ぶ方もいる。毎日、ご自分で部屋の掃除をされる方もいる。職員を呼ぶために、ベッドの上にチャイムを置いている方もおられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりのできることや、わかることを把握し、わかりやすい表示や表記をして、安全で自立した生活が送れるように工夫している。</p>	